

from the world
世界の国から

インドネシア・スラウェシ島

Sulawesi, Republic of Indonesia



ヨス・ハルメン

南スラウェシ州振興・投資局
協力課課長

Yos Harmen

Chief, Sub-Division of Cooperation Affairs
Promotion and Investment Board, South Sulawesi Province

面積 19万平方キロメートル
人口 1560万人
日本からの主な進出企業
丸喜、キーコーヒー、三井農林、
九州メディカルなど



スラウェシの食糧庫を世界の市場へ

多様な民族と豊富な農水産資源

スラウェシ島はインドネシアにある1万7千もの島の中で4番目に大きな島で、人口は1500万人、東インドネシアの玄関口として有名です。島内は6つの州に分かれ、異なった部族が暮らしています。産業は農業主体でカカオやコーヒー、米、パッションフルーツなどが栽培され、水産業では輸出向けの海草、エビやマグロ、カツオなどが中心です。インドネシアの一人当たりの国民総生産は1千ドル強ですが、スラウェシは620ドルと、まだまだ水準が低いのが現状です。

加工業に集中する投資状況

現在海外からの投資は南スラウェシ州、中でもインフラ整備が良好で島一番の港を持つ州都マカッサルに集中しています。投資の対象は農産物や海産物の加工と木材加工が主軸となっており、20社ほどの日本からの投資もあり

南スラウェシ州の港湾都市・パレパレの美しい海



ります。また、ダイビングスポットに重点をおいた観光業に対する投資も始まっています。

スラウェシ島はジャワ島などと比べても、賃金や土地、電気水道料金を始めとした生産コスト全般が安く、これからの投資先として期待されています。またインドネシア国内では労働争議、ストライキなどが多く、企業にとっては問題の一つとされていますが、スラウェシ島に関していえば、こういった事象は少ない傾向にあります。

現在島内には4ヶ所の経済開発特区があり、ここにプロジェクトを立地した場合、様々な政府の企業支援が受けられます。税制に関しては法人税のみならず、固定資産税や輸入税などに優遇措置があり、特に土地建物には50%低い税率が10年間にわたり適用されます。

交通整備が商品発信の鍵に

島全体の課題としては、インフラ整備の更なる充実が挙げられます。交通手段については、南のマカッサルから北のマナドまで島を縦断する2千キロの道路がありますが、この道を行くと約3日かかります。両都市には空港や港があり、ここから他の島や海外にも繋がっていくのですが、今のところ時



南スラウェシ州・トラジャの田園風景

間やコストの負担が大きいのが実情です。今後さらに東インドネシアの玄関口としての役割強化を行なっていき、将来的には島から直接海外との輸出入ができるような環境にしたいと思います。現在マカッサル港拡張のための入札を行っていますが、今後空港拡張の計画もあり、これらを契機にスラウェシ島の商品を発信する場が更に広がると予想されます。

スラウェシ島はこれからも農業・水産業をベースにした、国内外における食料供給基地としての役割が続くと思います。今のスラウェシ商品の品質では、まだ日本市場への参入は厳しいでしょう。今回の日本滞在は、水産加工業者の反応がよく有意義なものになりましたが、日本からの更なる技術導入をスラウェシ島では歓迎します。カカオや海草など島の特産物の品質を向上させ、世界のマーケットに流通させるためにも、海産物加工工場や大規模なプラントーションなど、日本の加工プロセスの手法を積極的に導入したいと考えています。

写真提供：川端岳郎